



第十二号



発行所

〒370-0131 伊勢崎市境米岡二七九-二
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話0二七0(七四)0五七三

新「教章」に思う

弘教寺住職 中山英昭

昨年、前門様の時代に示された「教章」が改訂された。三十数年を経て、宗祖大遠忌法要に向けての内容の刷新であります。

こう言いまして、門徒の皆さんにとつては、何のことやら、分かりにくいことと思えます。門徒用の聖典を開きますと、一頁あたり、「浄土真宗の生活信条」とともに載っていますので、確認してみてください。

寺離れ、信仰離れの傾向が、最近どの寺でも叫ばれております。若い方(中高年の方も含めていいかも知れませんが)のほとんどは、我が家の宗派も知らず、親が亡くなって初めて、自分の家が浄土真宗という宗派で、さらに、本願寺派(西本願寺)であることに気付くのです。住職の立場からすると、せめて宗派ぐらいいは、知っていてほしいと寂しい思いになります。ときには、後になって、宗派が違っていたと、私どもの寺に来られたりという例もあります。

この寺報に、「新教章」を差し込みで入れておきましたが、カッコ内に『私の歩む道』

とあります。今を生きる門徒への、ご門主様の願いでありましょう。また、永々とお念仏のみ教えを、時には命がけで守つて来られた私達の先祖の方々の願いでもあると思います。ご本山や私どもの寺にとりまして、今「次世代」へみ教えを伝えることが、大きな課題といつても良いでしょう。本山でも、キッズサンガ(子ども集い)を、七百五十回大遠忌法要までに、すべての寺で、実施するよう推進しております。

弘教寺では、十五年目に入りますが、春、夏の「子どもの集い」を実施しております。

お参りに伺った折、手を合わせ、大きな声で「ナマンダブ」とお念仏を称えて下さる子どもさんや、寺で差し上げたお念珠を大事にして下さる子どもさんに出合いますと、ただただ有難い思いで、集いを続けてきて良かったと感じます。

仏さまのみ教えは、死者を送り出す教えではありません。私がみ教えに出会い、喜びの時も、悲しみの時も、「ナモアマミダブツ」と歩ませていただく道であり、み教えです。

だからこそ、カッコ付きで、『私の歩む道』と、あえて示されたのだと思います。

この寺報を読んでおられるあなたに、次世代の方が、浄土真宗って、どんな宗教?と尋ねられた時、私の家の仏教は、どんな教え?と尋ねられた時、是非とも仏壇の部屋や、身近な所に貼つて置いていただいて、子や孫の皆さんとの話のキツカケにしていただけたいと思います。

関東地域では、浄土真宗の寺は少なく、群馬県では九割以上が、真言宗、天台宗、禅宗で占められ、仏事習慣も、大分違っております。分らない事は、寺へ尋ねていただければ良いと思いますが、この「教章」を読んでもいただければ、浄土真宗のガイドラインが見えて来るのではないかと思います。

今日(こんにち)、政治も経済も混乱し、人の命もあまりに軽くなってしまいました。「世の中安穩(あんのおん)なれ」と願われた親鸞聖人の七百五十回大遠忌法要を二年後に控え、門徒の皆さんが、「教章」を通して、宗派、み教えに、関心をいただく一助になればと願います。 称名



本山では、額入りの教章、色紙状のしつかりした教章が販売されております。ご希望されます方は、弘教寺までご連絡ください。

中村富子 講演会
ある ある ある
母 久子のおもい

手足なき身にしあれども生かさるる

いまの命は尊とかりけり

中村久子女史の残した言葉は、逆境に追い詰められた人々を力強く支えて、生きている尊さを示している。

久子女史の次女、中村富子先生には、八年前にも弘教寺仏婦三十周年記念で「母 久子」の講演をいただきました。二回目の今回は、次のようなエピソードが語られました。



1 娘の富子に背負われての講演

「私は母の生きざまを見てまいりました。本当に、明るくて、厳しくて、やさしくて、涙もろくて、怒りがちで、いろいろの面をもっている

普通の人でした。」

「高山高女のと看、友達の一人が母の悪口を言ったので、私が家までとなりこんで行きました。そしたら友達のお母さんが出てきて、事情を聞き、富ちゃんのお母さんの悪口をいうのは、貴方が悪い、と言って小母さんもう緒になって謝ってくれました。」



講演中の富子先生

「高女の新任の先生が私のことについて手紙を出されたら、母は朝鮮の釜山から三日かけて駆けつけてくれました。私が職員応接室に呼び出されて行つて見ると、先生が目を泣き腫らして、富ちゃんごめんね、先生は知らなかった、と言つてくれました。」

母は手も足もない身体で、一人で駆けつけてくれました。トイレが一番大変な事ですが、食べたり呑んだりすることを控えてやつて来ました。母の帰りはクラスの皆が母を送つてくれました。母は釜山に帰るまで、列車の中で涙が止まらなかつたそうです。」

先生は講演の最後に朝日新聞で見つけた小学五年生の男の子の詩を披露して終わりました。

皆にあつてばくはないもの

皆にあつてばくはないもの お母さん

皆にあつてばくはないもの おばあさん
ただ僕には 皆にまけない 愛がある

感動的なお話がいっぱい盛り込まれた講演会でした。

久子女史のご生涯

明治三十年十一月二十五日、岐阜県高山市に生まれる。三歳で突発性脱疽(だつそ)がもとで両手足を切断、一時は失明の苦しみも経験した。生活のために見世物小屋に出て自活、ひたむきに読書、裁縫、書道などに打ち込み、肉親との死別の悲しみの中で、天理教無我愛、キリスト教などの宗教に出会った。最終的に「歎異抄」に震えるような感動を覚え浄土真宗の教えに導かれて生き、多数の著書を残した。晩年は、富子先生に背負われ、全国を講演して回った。

NHKの番組、人生読本で「御恩」と題して語り、全国に大反響を呼び、沢山の支援力ンパが寄せられ高山の国分寺境内に、慈母観世音菩薩像を建立した。

来日したヘレン・ケラー女史は、「私より不幸な、そして偉大な人」の賛辞を贈った。

身体障害者の模範として、厚生大臣賞を受賞、宮中に参内し天皇陛下のお言葉を賜った。

昭和四十三年高山市の自宅で、脳溢血で倒れ七十一歳の生涯を閉じられた。(玉田夕)



2 編み物中の久子女史

1, 2は「中村久子女史と歎異抄」よ

「第29回 東京教区仏教壮年会連盟 結成記念日研修会」開催される

二月二十一・二日の二日間、伊香保のホテル天坊で群馬組の仏教壮年会が、十五年振りに開催担当となり、盛大に開催されました。

当日は、東京教区内各地より総勢三百三十七名もの大勢の方々が参加されました。群馬組からは、百三十二名参加。当弘教寺は教区内寺院で最多数の三十七名もの方々に参加していただきました。

初日は、龍谷大学教授の鍋島直樹先生が「別れと出会い」と題し、親鸞聖人の死生観について記念講演を行いました。

懇親夕食会では、アトラクションとして当弘教寺仏教婦人会「ユカレリ」の皆さんが、ハワイアンバンド(ロス・アモレス)の演奏に合わせてフラダンスを披露してくださり、大好評を得ました。

二日目は朝九時から「これからの私はどう生きるか」のテーマで、鍋島先生より基調講演をいただき、パネルディスカッション、質疑応答の後、研修会は多くの方々のご協力を戴き、無事閉幕となりました。(貝塚シ)



結成記念日研修会に参加して

仏教壮年会会員 須田正信

結成記念日研修会は、私にとって感動の連続でした。鍋島先生の記念講演、懇親夕食会の素晴らしいユカレリのフラダンス。参加された皆様は大満足であったと思います。そこには、日頃、住職が話されている利他の心、お寺以外の心が生き生きとしていました。

お寺以外の研修は初めてでしたが、「これからの私はどう生きるか」のパネルディスカッションは、現在の私の生き方について、考えさせられる点がありました。それは「もつと社会に役に立つこと」でした。「すべての生命あるものが幸せでありますように」というブータン人の祈りの言葉に感動しました。

ユカレリのココロ

坊守 中山恵子

普段以上の練習を重ね臨んだロスさんとの緊張のアトラクション。本番での並び替えやステージ上に立つなどの突発的状況にも対応して、大きな拍手の中、踊り終えることができました。仏婦と仏壮がお手伝いし合う弘教寺の姿を見ていただけよかったです！ありがとうございました。



弘教寺 仏壮・仏婦合同研修旅行

昨年十一月に三十一名の方が参加して、二泊三日の日程で四国を訪ねました。研修旅行の目的はその土地の風土に触れ、歴史・文化の見聞と本場の味覚を楽しみ、会員相互の親睦を深めることにあると思います。

四国は開発・整備が先送りされ、いまだに自動車特急(ディーゼル車)が走り、素朴さの残る歴史と文化の豊かな土地です。その地を「土佐黒潮のロマンと道後湯遊」と題しての研修でした。

高知・桂浜で「龍馬」の歴史を学び、香川・塩屋別院で四国に於ける浄土真宗の歴史を教わり、愛媛・松山では「子規・漱石」の文学に触れました。

土佐藩下屋敷跡のホテルで土佐料理に満足し、翌日の金比羅宮を参拝した後のさぬきうどんは「本場」の味覚でした。

今回の特筆は、励ましあいながら七百八十六段を登り降りし全員が無事に参拝でき、仏壮と仏婦の絆がより強まったこと、又ご自慢の歌と、仏婦のフラダンスに、魅了された大宴会で更に親睦が増したことであります。楽しい研修を我が故郷で出来たことに感謝いたします。(橋本マ)



仏教の豆知識

(5)

「他力本願」 たりにほんがん

私たちが何気なく使っている日常語の中にも仏教に関係した語が多く見られます。

「他力本願」を誤解して使っていませんか？「この一敗で、自力優勝の道は絶望ですね。あとは、他力本願にたよるしかないですね。」スポーツ報道でよく聞かれる話です。

この場合、これからいくら勝ち続けても優勝はできない。今度は相手が負けるのを待つしかない、という意味でしょう。

このように「他力本願」は、もっぱら他人の力をあてにする、他人まかせという意味で、いろんな場面で使われています。これはたいへんな誤解です。

親鸞聖人は『教行信証』に「他力といふは如来の本願力なり」と明示しておられます。だから、他力とは、他人の力ではなく、「仏の力、阿弥陀仏の慈悲のはたらき」をいうのです。

「仏さまの生きとし生けるものを救わずにはおれないと強い願いの働き」これが「他力本願」なのです。(くらしの仏教語豆辞典より)

平成二十四年一月十六日は、宗祖親鸞聖人の七百五十回忌にあたります。本願寺では、「親鸞聖人七百五十回大遠忌法要」を平成二十三年四月よりお勤めになります。この期に、聖人の根本の教えである「他力本願」を正しく理解し、聖人のみ教えに生きたいものです。

読者からのことば

『仏縁を思う』を読んで 杉本仁八
私は、英昭住職さんの十一号の「仏縁を思う」を読みました。私には連想する想い出があります。幼少の頃、お寺にいくことがありそれが昨日のように目に浮かぶのです。

母に連れられて、お米をひと袋持つて行くのです。そして本堂でのお坊さんのお経のあと、高い壇からお話がありました。そして、なによりも楽しかったのは「お齋(とき)」でした。朱塗りのお椀に盛られた「おから」です。その味がうまかったこと、つぎの「お参り」が待ちどおしいものでした。

八十路をこえた今、弘教寺に思いを託しています。私は「信心」を大切にしたいと思っていますが、平成の現世に「怒り」があるのです。「生きづらさ」「住みにくさ」「年寄りへの仕打ち」など巷にいつぱいあります。

英昭住職さんが、法事には「幼い子も連れて・・」といわれること、浄土真宗の「あたたかさ」が滲んでいます。

「つつじ寺だより」をたのしみにし ており ます。



お齋 献立



お齋 風景

編集後記

弥生・三月は梅、桃と春の花が毎年、咲きつづけます。NHK、TBS、NTV:にも数十年継続の番組がありますが: つづけることは、当たり前のようにむずかしく、花は自然の恵み、番組は関係者一同の協力が要。 「つつじ寺だより」も、お寺と門徒の皆さんの協力です。先月の教区研修会で、他の寺の方より「だより」頑張つてつづけてね、と激励されました。(橋本マ)

行事予定 (平成21年 4月~平成21年 7月)

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
4月	中旬	婦人会例会	初旬	群馬組ビハラ
			中旬	群真会コノコバ
	29日	永代経法要	下旬	教区仏壮理事会
5月	8日	弘教寺コノコバ	中旬	教区仏壮連盟総会
	中旬	婦人会総会	28日	教区仏婦連盟総会
	下旬	壮年会総会		
6月	中旬	婦人会例会		
			30日	組仏婦連盟総会・研修会
7月	中旬	婦人会例会		
	下旬	壮年会例会	下旬	群馬組ビハラ